

# 議題 1. 2022年度事業報告 概要

2022年度に計画された事業については、概ね順調に進めることができた。以下、各委員会の活動概要を紹介するが詳細は資料でご確認いただきたい。

- ・理事会では役員選挙の結果を受け、6月から小松康宏氏を会長とする新体制となり、協会の運営にあたった。長年の課題となっている奨学基金の運用、長期財政計画や今後の事業の在り方等について検討を進めた。総会時に寄せられたご意見についての回答を11月にホームページに掲載、委員会からの審議事項、地区会からの要望等を検討した。協会の知的資産の円滑な管理・運営を実現するため、総務会管轄の著作権問題検討ワーキンググループを2月に立ち上げた。そのほか、2023年度総会でのオンラインを使ったリアルタイム動画配信、2023年度分科会の準備を進めた。
- ・総務会管轄の医書電子化検討ワーキンググループでは、日本医書出版協会と懇談機会を持ち、医書ジェーピー社と医書.jp eBook アラカルトについて意見交換を行った。
- ・企画・広報委員会ではE-ラーニングシステムを改修・整備した。また、国立国会図書館への寄贈資料送付を実施した。
- ・機関誌「医学図書館」編集委員会では「医学図書館」4号を定期刊行した。編集業務において出張校正を再開した。
- ・出版委員会では「わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド 第2版」を刊行した。出版物（冊子・電子）の新たな販売ルートの検討を行った。
- ・学術情報コンソーシアム委員会ではJPLAと合同で19社72件の提案を獲得した。円安と版元価格上昇の影響を受け、提案各社と会員館へ対応についての呼びかけを行った。また、会員からの個別の相談にも対応した。
- ・教育・研究委員会ではJMLA コア研修、JMLA 学術集会、図書館総合展フォーラムをオンラインで開催した。研究助成・海外研修助成に各1件申請があり、審査を行った。医学中央雑誌刊行会受託事業費で、動画「医中誌 Web の検索（演習編）」を作成した。
- ・医療・健康情報委員会では「患者図書室おススメ資料コーナー（掲示板）」の本運用を開始した。また「医療・健康情報パスファインダー集」の実現に向け取り組んだ。
- ・認定資格運営委員会では予定どおり2回の募集を行い、申請の促進の活動として関連団体への情報発信等に取り組んだ。また中上級申請数減少の要因分析について検討を行った。
- ・受託事業委員会では受託事業を推進した。医学中央雑誌刊行会受託事業については教育・研究委員会E-ラーニング作成ワーキンググループにコンテンツ作成を依頼した。診療ガイドラインワーキンググループでは21ガイドラインを新規に受託した。診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループでは昨年度に続きオンラインでワークショップを開催した。
- ・協会賞・奨励賞選考委員会では2022年度受賞候補の選考を行った。
- ・組織・制度委員会では諸規則の改定を行った。規程類の序列について見直し、名称の変更等を検討した。
- ・病院部会では定例会と見学会を開催した。

# 議題 1. 2022年度事業報告

## I. 総務会

### 1. 委員

担当理事 阿部 潤也（東歯大）、城山 泰彦（順大）、児玉 閲（専務理事・個人）、佐藤 晋巨（聖路加）、田口 宣行（埼玉大）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催（すべて Web 開催）

- 第 1 回 4 月 7 日
- 第 2 回 6 月 13 日
- 第 3 回 10 月 20 日
- 第 4 回 12 月 7 日
- 第 5 回 2 月 22 日

#### 2) 事業達成状況

- (1) 2020 年度～2023 年度重点事業目標を進めた。
- (2) 第 93 回（2022 年度）総会を 2022 年 5 月 27 日に日本教育会館（東京都）で縮小開催した。出席者は 175 名（内、書面表決書 164 名）だった。企業展示の代わりとなる動画によるプレゼンテーションを企画、参加企業を募集しホームページに掲載した。分科会を 5 月 30 日にオンラインで開催した。大西浩文氏（札幌医科大学附属総合情報センター長、札幌医科大学医学部公衆衛生学講座教授）に「保健医療分野における AI の活用」、山口直比古氏（正会員個人、聖隷佐倉市民病院図書室）に「PubMed の現在：全ての人々へ医学情報を」をご講演いただいた。
- (3) 第 94 回（2023 年度）総会の開催を計画した。2023 年 5 月 26 日に北里大学大村記念ホールで開催することとし、コロナによる規模縮小は解除するが、総会の様子をインターネットで配信する方向で準備を進めた。企業展示は行わず、代わりとなる動画によるプレゼンテーションを企画、参加企業を募集した。分科会は加藤理事、小林理事、土田理事が担当となり、2023 年 9 月までにオンラインで開催する方向で準備を進めた。
- (4) 2022 年度地区会事務局連絡会議を 12 月 1 日に開催した。この場で地区会研修助成費の金額と使途の見直しについて要望があり、2 月 27 日の理事会で報告し、意見交換したが結論は出ず、継続審議することとした。
- (5) 2022 年度委員会委員長会議を 1 月 25 日に開催した。
- (6) 韓国医学図書館協会秋季学術大会への派遣及び総会への来賓招聘は中止した。
- (7) 地区会会議に理事が出席した（6 月 20 日近畿、11 月 11 日中国・四国、12 月 8 日近畿）。
- (8) E-ラーニング、会議システムについて検討した。E-ラーニングについては、企

画・広報委員会や教育・研究委員会により実効性のある環境やコンテンツが整いつつあるので、総務会での検討は2022年度で終了することとした。会議システムについては、Zoom導入によりほぼ順調に運用できているが、総会でのオンラインによる議決権行使を実現できていないため、その検討を行った。

- (9) 奨学基金は「奨学基金規程」があるため他の事業に転用できない状況にあるが、使い途の再検討も視野に入れて、検討を継続することとした。長期財政計画については、今の時勢で長期計画を立てることは難しいことから、今後5年程度の方針を、財政担当理事を中心に検討することとした。
- (10) 役員選出方法について検討を行った。役員選挙時に地区会から推薦されても辞退者が多いという問題は把握しているが代替案は見つからず、継続審議することとした。
- (11) 著作権問題への対応と体制を検討し、総務会管轄下に著作権問題検討ワーキンググループを設置した。
- (12) 関連団体との連携については、国際医学情報センター（IMIC）創立50周年祝辞、全国医書同業会新年互例会挨拶、医学中央雑誌創刊120周年祝辞などに総務会が協力して対応するなどした。
- (13) 業務精査と合理化、事業の見直しについては常に意識をしているが、具体的な取り組みはできなかった。JMLA事業の大部分は会員による委員会活動で成り立っているため、委員会が抱える課題を解決することは、間接的でも事業の見直しにつながると思われる。委員会委員長会議でもある委員会の悩みに対して他の委員会からアイデアを出されることもあった。そのような会員が触れ合える場を設けることも事業見直しの一助になることも念頭に置きながら、検討を継続することとした。
- (14) 2023年1月23日～1月31日におけるNACISIS-ILL停止期間中の会員館対応について、近畿地区会から一覧表作成・公開の提案があり、総務会で方針を策定し、企画・広報委員会が具体的な対応をした。
- (15) NLM文献複写事業の受付休止が続いていることを受けて、図書館がNLMに直接文献依頼をするためのガイドを作成し、配布した。
- (16) 近畿地区会から協会事業見直しに関する要望書を受け取った。「委員会活動の抜本的見直し」「会費の見直し」を要望されており、最終的には理事会での検討になるが、まずは対応方針の敲き台をまず総務会で作成することとした。
- (17) 理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。
- (18) 総会における委任状が機能しづらい現状を鑑み、委任状の扱いについて検討することとした。

### 3. その他

担当委員会のあるものは、当該委員会の事業報告を参照

### 4. 今後の課題

#### 1) 奨学基金の使い方

- 2) 中期財政計画の検討
- 3) オンラインで議決権行使可能なシステムの検討
- 4) 役員選出方法の検討
- 5) 業務精査と合理化、事業の見直し
- 6) 近畿地区会からの協会事業見直しに関する要望の検討

## 5. 事業別報告

### 1) 医書電子化検討ワーキンググループ

#### (1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 城山 泰彦 (順大)

委員 磯本 善男 (個人)、河合 富士美 (聖路加)、児玉 関 (個人)、  
小林 飛鳥 (個人)、田口 宣行 (埼玉大)

#### (2) 事業計画と年間目標の達成状況

##### ① 医学書院と医書ジャーナルとの、医書.jp eBook アラカルトに関する意見交換 (7月29日: Web開催)

- ・2022年に大学や病院等を対象とした機関向けの電子書籍サービス「医書.jp eBook アラカルト」が開始された。JMLAへの製品案内や契約の進め方に不十分と思われる点がみられたため、医学書院(総代理店)と医書ジャーナル社(提供元)と意見交換の場を設けた。
- ・JMLAと日本医書出版協会(JMPA: Japan Medical Publishers Association)とで長年にわたり検討を進めてきた経緯と、このたびの意見交換会に至る経緯を報告して、対応への懸念と今後の改善を要望した。

##### ② JMPAとの国内医書電子化に関する意見交換(10月27日: Web開催)

- ・あらかじめ用意した議題について、意見交換をおこなった。主な議題は、電子資料のコンテンツ、授業目的公衆送信補償金制度、コロナ禍での図書館利用の変化と今後の見通し、などであった。
- ・この懇談の場は、出版社と図書館とが意見交換する場として、出版社の考えを図書館に紹介すること、また図書館の現状や取り組みを出版社に説明することに役立つ機会となっている。今後も年に2回程度の、懇談の機会を続けていくことになった。

##### ③ JMPAとの懇談(3月15日: Web開催)

- ・あらかじめ用意した議題について、意見交換をおこなった。JMLAから投げかけた議題は、電子書籍の利用、ポーン・デジタルコンテンツに対する考え方、OPACで検索ヒットを高めるための工夫、リンクリゾルバ対応、であった。先方からの議題は、公衆送信の実態、電子ジャーナル契約における為替相場の影響、電子ジャーナルの動向(OAと購読モデル等)、であった。

#### (3) その他の報告事項

なし

#### (4) 今後の課題

- ① JMPA または出版社との意見交換の継続
- ② 電子コンテンツや医学書に関する意見交換
- ③ 電子コンテンツをとりまく環境等に関する意見交換
- ④ 「医書.jp eBook アラカルト」に関する、JMLA からの要望の対応確認

## 2) 著作権問題検討ワーキンググループ

### (1) 委員

- |        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 担当理事   | 総務会                                  |
| グループ長  | 阿部潤也（東歯大）                            |
| 委員     | 金谷直樹（札医大）、田中愛子（旭医大）                  |
| オブザーバー | 児玉闊（専務理事・個人）、谷澤滋生（事務局長）、宇佐見由美（事務局主任） |

### (2) 事業計画と年間目標の達成状況

- ① 委員会の開催  
第1回 2月 9日（Web 開催）
- ② 総務会が行う著作権問題への対応と体制検討への協力  
課題の整理を行った

### (3) その他の報告事項

著作権啓発ワーキンググループは 2023 年 5 月末をもって廃止、その後の当該ワーキンググループの事業は当ワーキンググループにて引き継ぐ予定である

### (4) 今後の課題

- ① 著作権に関する内規改定
- ② 著作物の管理方法検討
- ③ 会員への方針伝達、外部機関への情報発信
- ④ その他、突発的に発生した事案対応

## 3) 国際交流ワーキンググループ

### (1) 委員

- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 担当理事   | 総務会                                 |
| グループ長  | 佐藤 晋巨（聖路加）                          |
| 委員     | 神尾 ひろ子（日大歯）2022 年 9 月末まで、佐山 暁子（聖路加） |
| オブザーバー | 諏訪部 直子（個人）                          |

### (2) 事業計画と年間目標の達成状況

- ① 委員会の開催  
無し
- ② 韓国医学図書館協会（以下、KMLA）との連携  
JMLA 年次総会への招聘及び KMLA 秋季学術集会への派遣は行わなかった。
- ③ 米国医学図書館協会（以下、MLA）との連携  
MLA との連携に係る活動は特に無かった。
- ④ 英語での国際交流活動の情報発信  
JMLA 関連名称の英語表記の改訂を行った。
- ⑤ 海外からの問い合わせ、医学図書館見学希望者への対応

無し。

## 6. その他の実績

### 1) 会員の動向

入会

正会員個人 2人

維持会員 3機関（団体）

退会

正会員 B 東京警察病院図書室

正会員個人 9人

2023年3月31日現在の会員数

正会員 A 100機関

正会員 B 45機関

正会員個人 105人

協力会員 2機関

維持会員 16機関（団体）

維持会員 3人（個人）

### 2) 助成金

株式会社紀伊國屋書店

株式会社サンメディア

### 3) その他

資料の共同購入ほか

図書館年鑑 26冊 384,800円

磁気テープコンソーシアム 紀伊國屋書店：27,000本 三省堂書店：68,400本

## II. 企画・広報委員会

### 1. 委員

担当理事 阿部 潤也（東歯大）

委員長 黛 崇仁（東邦大）

委員 天野 いづみ（静岡赤）、川崎 かおる（岩医大）

ホームページ担当ワーキンググループ

藤沢 靖子（杏大医・グループ長）、鷹野 祐子（都医学研）、

水嶋 直子（順大）

会員統計担当ワーキンググループ

井上 俊子（神常盤）、梅内 美鈴（北里白）、滝野 美和子（田附研）、

徳江 紀子（国がん）

重複雑誌交換担当ワーキンググループ

柏俣 友紀（日看協）

要覧担当ワーキンググループ

曾田 昌弘（関医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 2月 8日（対面・Web 開催併用）

2) 国立国会図書館への蔵書寄贈システム

(1) 第3回（2021年度）調査

1館から寄贈の申請があり、8冊が国立国会図書館へ寄贈された。

(2) 第4回（2022年度）調査

2023年1月27日に依頼した。

3) ホームページ

(1) ホームページ更新体制

中央事務局との協働により、遅滞なく対応できている。

(2) E-ラーニングシステムの改修・整備

従来、対面方式で実施してきたコア研修は2021年度よりオンラインで実施しているが、2022年度は受講管理が可能となるようにE-ラーニングシステムを改修・整備した。

4) 会員統計

(1) 第93次（2022年度）会員統計

2023年3月2日に完成版をホームページに掲載した。

5) 重複雑誌交換

(1) 第73回（2022年度）重複雑誌交換事業の実施

第1回（2022年度9月20日～10月7日）、第2回（2023年2月6日～2月24日）で実施した。

(2) 第72回（2021年度）交換実績報告書

第93次会員統計（2022年度）とあわせて実施した。

6) 要覧

(1) 冊子体の発行

「要覧 2022-2023」（2022年度）の発行は見送られた。

(2) 「要覧 2018-2019」変更点のホームページ公開

冊子体発行以降に改訂された規程や名簿等は、組織・制度委員会とホームページ担当ワーキンググループにより、速やかに最新版を本会ホームページ上に掲載している。（冊子とホームページの掲載内容が異なる場合はホームページを優先）

3. その他の報告事項

1) 要覧 NACSIS-ILL 停止に伴う各館対応に関するアンケート

NACSIS-ILL の停止（2023年1月23日～31日）に伴い、各館での対応について2022年12月19日にアンケートを実施した。

#### 4. 今後の課題

- 1) 国立国会図書館への蔵書寄贈システムと重複雑誌交換事業との連携  
重複雑誌交換事業で提供可能な雑誌に国立国会図書館に所蔵がない資料も含まれていることから、業務連携について検討を行う。
- 2) 第94次(2023年度)会員統計  
統計項目について、関係する委員会等と事前に意見交換を行う。
- 3) 重複雑誌交換実績報告書  
協力会員の実績報告の回答方法について検討を行う。

### Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集委員会

#### 1. 委員

担当理事 田口 宣行(埼玉大)

委員長 浅野 泉(個人)

委員 石井 恵(個人)、伊藤 智輝(北里白)[10月31日まで]、大野 圭子(個人)、工藤 女恵(個人)、菅 修一(個人)、半澤 智絵(個人)、百留 悦子(埼玉大)、藤村 三枝(滋医大)

編集協力委員 樋口 陽子(北大)、千葉 基弘(岩医大)、相澤 まゆみ(市川崎病)、永井 登志江(新大旭)、榊原 佐知子(愛医大)、松本 蘭(関医大)、池 由美子(高大医)、松田 綾(長大医)

#### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

##### 1) 委員会の開催

第1回 10月24日(Web開催)

##### 2) 「医学図書館」(年4号)の発行

(1) 定期刊行を維持した。

①69巻2号(2022.6.20) 特集「悩める図書館」「医学・図書館史展示の旅」

②69巻3号(2022.9.20) 特集「文献検索」

③69巻4号(2022.12.20) 特集「第6回JMLAコア研修」

④70巻1号(2023.3.20) 特集「医療系大学・研究機関にある博物館・資料館」

##### 3. その他の報告事項

1) 著者向けサービスとして、新たに従来有償提供していた別刷(PDF版)の無償提供を開始した。

2) 編集業務面では出張校正を再開することができたが、対面による編集委員会の開催は今年も見送りとなった。

3) 任期途中の委員辞任に伴い、主任メールによる委員募集を行った。

#### 4. 今後の課題



- 1) 引き続きオンライン委員会など業務の効率化を図りたい。
- 2) 機関誌編集の根幹である活発な議論や情報交換ができない状況が続いているが、各種ツールを駆使し工夫をしながら編集作業に取り組んでいる。
- 3) 各委員の業務バランスを考慮して委員の増員を試みる。

## IV. 出版委員会

### 1. 委員

担当理事 城山 泰彦（順大）  
委員長 吉新 裕昭（獨協医大）  
委員 榊原 佐知子（愛医大）、片岡 理子（国医情）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 2月28日（Web開催）

#### 2) 出版について

##### (1) 『わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド検索事例付 第2版』の出版

医中誌 Web の新バージョンが 2021 年 11 月に管理者向けに限定公開され、その後、2022 年 5 月に法人契約版、2022 年 9 月に個人契約版がリリースされた。

この新バージョンに対応した新版の刊行を、著者および医学中央雑誌刊行会と調整して、2023 年 3 月に出版した。

### 3. その他の報告事項

#### 1) 新出版物の検討

1 件の企画について、検討を進めた。

#### 2) 販売方法追加の検討

冊子・電子とも新たな販売ルートを確保すべく、検討を進めた。

### 4. 今後の課題

#### 1) 新出版物の検討

#### 2) 販売方法追加の検討

## V. 学術情報コンソーシアム委員会

### 1. 委員

担当理事 富田 麻子（日医大中）  
委員長 田口 宣行（埼玉医大）

委員 江幡 歌奈子(東邦大)、鷹野 祐子(都医学研)、三浦 さと子(帝京大医)

## 2. 事業計画と年間目標の達成状況

### 1) 委員会の開催 (すべて Web 開催)

第1回 6月22日

第2回 1月18日

### 2) コンソーシアム提案交渉

日本薬学図書館協議会 (JPLA) 学術情報コンソーシアム委員会と合同で、出版元・代理店とコンソーシアム提案の交渉を行った。オンライン会議 16回、その他メールで交渉した。2023年向けの提案は、19社72件であった。為替状況と版元価格の値上げにより前年よりも提示額が上昇した提案がほとんどであったが、粘り強い交渉で値上げ率を下げることに成功した。他コンソーシアムと同内容の提案については、割引率・プライスキップなどの条件が不利にならないように交渉を行い、条件を是正することができた。

### 3) コンソーシアム提案の充実

病院所属の委員が不在の為、病院部会と協力してB会員の希望などを把握するように努めた。また、これまでのジャーナルやデータベースなどの提案以外にも、Publish & Read 提案や、AI 校閲ツール、剽窃ツールなど新たな提案を得ることができた。

### 4) コンソーシアム提案開示

会員アンケートの結果を考慮して、提案社主催のオンライン説明会を開催したが、参加者は委員がほとんどで、うまく活用されなかった。

### 5) ホームページ改修

コンソーシアムホームページをリニューアルし、閲覧しやすくするとともに、担当委員の負担を軽減した。

### 6) 雑誌、電子リソースの契約等に関することについての活動

コンソーシアム提案に限らず、代理店の対応など、会員からの相談に対応した。

## 3. その他の報告事項

### 1) 円安対応

今期の提案は、円安の影響と版元価格の上昇によりかつてないほどの価格上昇となった。交渉でできるだけ値上げ率を抑えるなどの努力を行ったが、提案各社には会員からの個別相談に応じるように要請を行った。また、会員には直接各社と交渉・相談をしてほしい旨、呼びかけを行った。

### 2) コンソーシアム説明会と提案に関するアンケートを正会員 A、B を対象に実施した。

### 3) コンソーシアム成立件数の調査を行った。

## 4. 今後の課題

### 1) 電子ジャーナル購読料から APC 支払いへの転換契約を求めるかなど、今後のコン

ソーシアム提案のあり方を協議していく。

## VI. 教育・研究委員会

### 1. 委員

担当理事 加藤 砂織（東女医大）

委員長 西村 志保（日医大中）

委員 石田 綾子（岐大医）、大瀬戸 貴己（奈医大）、大屋 玲奈（獨協医大）、菊地 元子（国病文献）

JMLA コア研修ワーキンググループ

グループ長 角田 ともえ（東海大伊）

委員 埜 清楓（聖マ医）、平山 紀子（久大医）

JMLA 学術集会ワーキンググループ

グループ長 白土 裕子（医中誌）

委員 廣瀬 瑛子（北里白）、根本 萌（北大）

E-ラーニング作成ワーキンググループ

グループ長 大崎 泉（慈恵大）

委員 笹谷 裕子（杏大医）、清水 ゆかり（杏大医）、成田 ナツキ（個人）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

教育・研究委員会（すべて Web 開催）

第1回 4月 28日

第2回 5月 26日

第3回 9月 9日

第4回 10月 11日

第5回 11月 8日

第6回 12月 22日

JPLA 合同教育・研究委員会

第1回 9月 9日

第2回 11月 8日（図書館総合展リハーサル）

JMLA コア研修ワーキンググループ会議

第1回 4月 19日

第2回 10月 7日

第3回 12月 26日

JMLA 学術集会ワーキンググループ会議

第1回 7月 22日

第2回 9月 6日

第3回 9月 21日

- 第4回 10月 14日  
第5回 11月 24日 (運営リハーサル)  
第6回 11月 30日 (全体リハーサル)  
第7回 2月 20日  
E-ラーニング作成ワーキンググループ会議

- 第1回 9月 2日  
第2回 2月 27日 (収録)

2) 第6回 JMLA コア研修開催

日程：2022年8月1日(月)～8月21日(日) 21日間

形式：オンライン(オンデマンド)開催

受講者数：75名(JMLA58名、JPLA1名、非会員16名)

- ・協会が導入した研修会システム(E-ラーニングシステム)を本格使用した。受講者への周知すべき情報が増加したが、ホームページ担当ワーキンググループの協力もあり滞りなく実施できた。

3) 第6回 JMLA 学術集会開催

日程：2022年12月9日(金)9:20-16:30

形式：オンライン(ライブ)開催 Zoom ウェビナー

午前：研究発表4題(発表：事前収録動画のライブ配信 質疑応答：ライブ)

午後：CEコース 文献検索演習中級2022

(医中誌Web：事前収録動画のライブ配信 PubMed：ライブ)

受講者数：76名(JMLA70名、非会員6名)

研究発表 62名(JMLA58名、JPLAなし、非会員4名)

CEコース 46名(JMLA42名、非会員4名)

- ・質疑応答をZoomのQ&Aに参加者に公開する形で実施したことで、多数の質問や意見が出る活発な会となった。
- ・研修会システム(E-ラーニングシステム)の使用にあたり、コア研修WGからの情報共有やホームページ担当ワーキンググループの協力があり、滞りなく実施できた。
- ・JMLA学術集会プログラム・抄録(オンラインジャーナル)を作成し、公開した  
<https://jmla1927.org/publish.php?q=9286>

4) 第24回図書館総合展イベント開催 (JMLA/JPLA共催 主担当：JMLA)

日程：2022年11月18日(金)14:00-15:30

形式：オンライン(ライブ)開催 Zoom ウェビナー

運営会場：東京女子医科大学図書館

テーマ：オープンアクセス・オープンサイエンスは図書館をどう変えるのか

講師：船守美穂氏(国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授)

参加者数：202名(JMLA87名、JPLA25名、その他90名)

参加証明書発行枚数：50枚

5) 助成募集

締め切り 1 か月前の段階で応募がなかったため、リマインドメールを送り会員への周知を図った。理事会に承認された助成は、下記ページに一覧化している。

「助成 過去の助成一覧」 <http://jmla1927.org/grant.php?q=63>

(1) 研究助成

2023 年度の募集をおこなった。1 件の応募があり、審査後、補足資料の再提出提出を求めた上、理事会に推薦した。

(2) 海外研修助成

2023 年度の募集をおこなった。1 件の応募があり、審査後、補足資料の提出を求めた上、理事会に推薦した。

(3) その他

一年間の研究期間延長となっていた 2020 年度研究助成は、受給者からの研究中止の申し出により、返金となった。

6) JMLA-CE コース登録の実施

2022 年度は 8 件(1 月 27 日現在)の申請を受け付け、審査後、認定資格運営委員会にポイント数を確認の上、JMLA-CE として登録した。オンライン開催研修が多いが、集合型研修も実施された。一覧を本会ホームページに公開している。

「JMLA-CE コース登録一覧」 <http://jmla1927.org/core.php?q=240>

7) E-ラーニングコンテンツの作成と公開

(1) E-ラーニング教材「JMLA E-ラーニング文献検索講座」のサイトポリシーに利用対象者を明記した。

(2) 医中誌 Web の検索（演習編）を年度内に公開した（医学中央雑誌刊行会受託事業費による作成）。

3. その他

E-ラーニングシステムの保守連絡網に、JMLA コア研修ワーキンググループ、JMLA 学術集会ワーキンググループ、E-ラーニング作成ワーキンググループのグループ長が参加し、要望等を共有するなど、システムの実用性向上に協力している。

## VII. 医療・健康情報委員会

1. 委員

担当理事 児玉 関（個人）

委員長 岡田 光世（東邦大）

委員 赤石 知香（青森保健大）、及川 はるみ（聖路加）、西 さやか（東医大）、渡邊 基史（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催（すべて Web 開催）

第 1 回 8 月 24 日

第2回 12月 5日

第3回 1月 16日

第4回 3月 23日

2) 企画・広報委員会ホームページ担当 WG との合同会議

第1回 3月 2日

第2回 3月 27日

3) 患者図書室おススメ資料コーナーの管理運用

(1) 企画広報委員会協力のもと、患者図書室担当者・関係者同士で、所蔵資料の紹介や情報交換ができる「患者図書室おススメ資料」掲示板を JMLA ホームページに設置し、2022年5月に運用を開始した。

(2) 幅広い層からの利用を目指して JMLA 会員および図書館関係団体に広報を行った。

4) 医療・健康情報パスファインダー集作成

(1) 作成マニュアルとテンプレートの確定

・パスファインダーのテーマ設定基準、作成マニュアル、テンプレートについて検討した。また、それらに基づき、パスファインダーのサンプルを作成した。

(2) パスファインダーのテスト公開と運用の確認

・テストページを作成し、作成マニュアルやパスファインダーのサンプルを掲載した。

・公開後の管理運営方法について、企画・広報委員会ホームページ担当 WG にも相談しながら検討を進め、JMLA サイトでの環境構築に着手した。

5) JMLA コア研修 (コア 6) 講師

(1) 第6回 JMLA コア研修「コア 6：一般市民への医療・健康情報提供」の講師を渡邊委員が担当した。

6) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大が続いたため、前年度に続き作業を休止した。

7) 医療・健康情報関連研修への講師派遣

(1) JMLA による対応が必要と判断された場合に対応することになっているが、2022年度に講師派遣要請はなかった。

3. その他の報告事項

1) 全国患者図書室実態調査 (仮) の検討

・折井匡氏 (正会員個人)、中嶋吏栄氏 (正会員個人) から提案のあった全国患者図書室実態調査 (仮) について検討、2023年度に折井氏、中嶋氏を委員に迎え、調査の中心的役割を担ってもらうことで対応する。

4. 今後の課題

1) 患者図書室おススメ資料コーナーの管理運用

2) 医療・健康情報パスファインダー集の試行

- 3) おススメ資料コーナー・パスファインダー集の利用促進を目指した広報
- 4) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討
- 5) 医療・健康情報関連研修への講師派遣
- 6) 全国患者図書室実態調査（仮）の計画

## VIII. 認定資格運営委員会

### 1. 委員

- 担当理事 小林 晴子（個人）  
委員長 北川 正路（慈恵大）  
委員 寺升 夕希（滋医大）、中島 裕美子（埼玉大）、  
永田 治樹（筑波大学名誉教授）、橋本 郷史（東邦大）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

- 1) 委員会の開催（すべて Web 開催）
  - 第1回 5月 23日
  - 第2回 9月 5日
  - 第3回 2月 7日
  - 第4回 3月 15日
- 2) 申請募集と認定審査
  - (1) 第38回募集（2022年7月受付、9月認定）  
審査件数：8件（基礎8名、中級0名、上級0名）  
認定件数：8件（基礎8名、中級0名、上級0名）
  - (2) 第39回募集（2023年1月受付、3月認定）  
審査件数：14件（基礎12名、中級2名、上級0名）  
認定件数：14件（基礎12名、中級2名、上級0名）
  - (3) 資格取得者の現存数  
第39回認定後 543名  
（基礎527名、中級8名、上級8名）
- 3) 申請の促進
  - (1) 関連団体への案内情報発信  
・関連団体機関誌、メーリングリストへの情報発信
  - (2) ポスター改訂
  - (3) 「ヘルスサイエンス情報専門員」ウェブサイトの更新
  - (4) 申請予定者からの問合せへの対応
- 4) 各種イベントのポイントの事前確認
- 5) ポイントの見直し
- 6) 認定資格制度の評価

- ・認定内容、認定対象者の範囲
- ・英語力に関する要件、専門職能力として求められる英語力認定について

### 3. 今後の課題

- 1) 研修環境の変化に伴う認定要件
- 2) 認定内容、認定対象者、ポイントの再確認
- 3) ポスター、チラシ、促進用グッズの更新

## IX. 受託事業委員会

### 1. 委員

- 担当理事 佐藤 晋巨（聖路加）  
委員長 佐藤 晋巨（聖路加）  
委員 総務会兼務

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

- (1) 委員会としては会議を持たず、総務会で全体を統括した。
  - (2) それぞれの事業はワーキンググループを組織するなどして活動した。
- 2) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ、診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

※詳細は事業別報告を参照

#### 3) 医学中央雑誌刊行会受託事業

- (1) 「医中誌 Web の E-ラーニングコンテンツの作成とその教育効果」（担当：教育・研究委員会）

### 3. 今後の課題

- 1) 新規受託事業の検討

### 4. 事業別計画

#### 1) 診療ガイドラインワーキンググループ

担当理事 佐藤 晋巨（聖路加）

グループ長 阿部 信一（慈恵大）

委員 石井 恵（個人）、柿田 憲広（個人）、加藤 恵子（国がん）、河合 富士美（聖路加）、工藤 女恵（個人）、小嶋 智美（個人）、小林 飛鳥（個人）、小林 晴子（個人）、佐藤 正恵（個人）、諏訪部 直子（個人）、曾根 麻里（静社健大）、高崎 千晶（個人）、寺澤 裕子（個人）、成田 ナツキ（個人）、森正 智子（昭和）、山口 直比古（個



人)、山崎 むつみ (静岡がん)、山下 ユミ (個人)、吉原 理恵 (個人)、愛知医科大学総合学術情報センター (代表: 榊原佐知子)、岩手医科大学附属図書館 (代表: 川崎 かおる)、大阪公立大学阿倍野医学図書館 (代表: 中橋 巧也)、杏林大学医学図書館 (代表: 藤沢 靖子)、慶應義塾大学信濃町メディアセンター (代表: 本井 恵理子)、滋賀医科大学附属図書館 (代表: 児玉 恭祐)、信州大学附属図書館医学部図書館 (代表: 滝口 智子)、東京慈恵会医科大学学術情報センター (代表: 阿部 信一)、東邦大学メディアネットセンター (代表: 大谷 裕)、奈良県立医科大学附属図書館 (代表: 鈴木 孝明) 【下線 = リーダー】

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催 (すべて Web 開催)

リーダー会 1月31日

ワーキンググループ会議 3月7日

②受託状況

21件のガイドラインを新規に受託した(別表参照)。作業可能な件数に絞るため受付中止期間を設けて調整した。(2022年8月より11月、12月末より3月19日まで受付を中止)

④委員会関係文書の整備

本会の運営するクラウドサーバに保存する文書と掲載方法をリーダー会で検討し決定した。

⑤検索体制強化の検討

検索担当者、リーダーの増員が課題となっているが解決には至っていない。

**Bunkan**の改修は継続検討となった。**Bunkan**は利用するPCのOS、ソフトのバージョン等により不具合が生じている。また、マクロ付きファイルの利用や送信についてセキュリティ面でのリスクが懸念される。検討では**Bunkan**を利用することの利便性と改修にあたっての課題(改修費用と改修を担当する人材)を確認した。

(3) 今後の課題

事業継続と体制の検討、**Bunkan**改修

2) 診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 佐藤晋巨(聖路加)

グループ長 阿部 信一(慈恵大)

委員 萩原泰子(信大医)、山崎むつみ(静岡がん)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催 (Web 開催)

第1回 7月15日

②ワークショップの開催

12月16日にZoomでオンライン開催した。参加者は会員18人。

- ③運営マニュアルの更新  
オンラインでの開催方法を追加し改訂が完了した。
- ④ワークショップシラバスの公開  
シラバスを公開した。
- (3) 今後の課題  
受講者間で受講の前提となる知識や経験の差を埋める方法の検討

別表

2022 年度 受託診療ガイドライン実績一覧		
受託番号	ガイドライン名	学会名
GL2201	小児胃軸捻転症診療ガイドライン	日本小児外科学会
GL2202	高齢口腔がん診療ガイドライン	日本口腔腫瘍学会
GL2203	創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン 3 糖尿病性皮膚潰瘍	日本皮膚科学会
GL2204	甲状腺腫瘍診療ガイドライン	日本内分泌外科学会
GL2205	嚥下障害診療ガイドライン 2023 年版	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
GL2206	免疫不全状態にある患者に対する予防接種ガイドライン	日本小児感染症学会
GL2207	多様性に配慮した循環器診療ガイドライン	日本循環器学会
GL2208	胆道閉鎖症診療ガイドライン 2023 (改定第 1 版)	日本胆道閉鎖症研究会
GL2209	小児期発症 SLE 診療ガイドライン	厚生労働科学研究班 (免疫・アレルギー疾患政策研究事業)
GL2210	CIDP・MMN ガイドライン	日本神経学会
GL2211	嗅覚障害診療ガイドライン	日本鼻科学会
GL2212	産婦人科内視鏡手術 (2024 年改訂版) ガイドライン	日本産科婦人科内視鏡学会
GL2213	CT ガイド下生検に関するガイドライン	日本 IVR 学会
GL2214	抗 SS-A 抗体陽性女性の妊娠に関する診療ガイドライン	厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業) 自己免疫疾患に関する調査研究班
GL2215	天疱瘡診療ガイドライン 2022	日本皮膚科学会
GL2216	下腿潰瘍・下肢静脈瘤ガイドライン	日本皮膚科学会
GL2217	CT ガイド下内臓神経ブロックのガイドライン	日本 IVR 学会
GL2218	関節リウマチ診療ガイドライン 2020 年度版改訂を目的とした、RA, JIA の妊婦・授乳婦に関するエビデンスの収集	妊婦・授乳婦関連 CQ 検討チーム
GL2219	先天鼻涙管閉塞診療ガイドライン	日本涙道・涙液学会
GL2220	腎癌診療ガイドライン 2023 年版	日本泌尿器科学会
GL2221	肺癌診療ガイドライン 2023 年版	日本肺癌学会

## X. 協会賞・奨励賞選考委員会

### 1. 委員

- 担当理事 平 紀子（個人）  
委員長 石井保志（個人）  
委員 石立裕子（個人）、首東 誠（個人）、掘米拓哉（日大歯）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

- 1) 委員会の開催（すべて Web 開催）
  - 第1回 7月 29日
  - 第2回 2月 4日
  - 第3回 2月 10日
- 2) 2022年度協会賞・奨励賞の選考  
第2回、第3回選考委員会で候補業績を選考し、後日、理事会報告を行った。
- 3) 新委員1名の欠員補充があり、第1回委員会から掘米委員が出席。

### 3. 今後の課題

- 1) 委員の欠員補充
- 2) 協会賞・奨励賞のブランディング
- 3) 選考ガイドラインの策定

## X I. 組織・制度委員会

### 1. 委員

- 担当理事 土田 壮一（金医大）  
委員 加藤 恵子（国がん）、森田 創平（北里医）、加藤 晃一（千大図）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

- 1) 委員会の開催（すべてWeb開催）
  - 第1回 5月 16日
  - 第2回 10月 26日
  - 第3回 12月 14日
  - 第4回 2月 15日
- 2) 本会諸規則の制定及び改定  
以下の規程類の制定及び改定作業を行った。（現在作業中のものを含む。）
  - (1) 制定作業

無し

(2) 改定作業（軽微な修正は除く。）

①「医学図書館」執筆規程

(3) その他

定款、規程、細則、内規の序列について検討し、序列に合わない規程以下の名称の変更を検討中である。また、この名称変更に伴い、根拠規定を示す条文の変更も検討し、新旧対照表にまとめており、検討中である。

3. その他の報告事項

改定された規程類については、最新版を本会ホームページへ掲載する。

4. 今後の課題

- 1) 諸規則の制定及び改定作業の迅速化を図る。
- 2) 規程全般に渡る整合性を確認し、体系化を図る。
- 3) 規程類の用語及び表記、並びに各種申請書の様式の統一を図る。
- 4) 総会での書面表決において会員からいただいたご意見に関し、検討する。

## XII. 部会 病院部会

1. 委員

部会長 加藤 恵子（国がん）

委員 泉 峰子（科学院）、春日井 泉江（名記念）、小林 飛鳥（個人）、  
下山朋幸（NCNP）、高崎 千晶（個人）、成田 ナツキ（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 幹事会の開催

第1回 6月 12日（Web開催）

第2回 1月 13日（Web開催）

第3回 3月 10日（対面・Web併用開催）

2) 定例会の開催

7月 23日（Web開催）

3) 見学会の実施

3月 10日 JMLA 会員のみ無料で実施

参加：会員 12人

4) 研修会の実施

今年度は実施しなかった。

3. その他の報告事項

1) 外国雑誌契約に関するアンケートを実施

4. 今後の課題

1) 研修会、見学会の実施

2) 幹事の欠員募集